

創刊のことば

- ◇ わたしたちは、雑誌『農耕の技術』を発刊します。この際、多くの方々に、わたしどもの意図をご理解いただきたいと思います。
- ◇ わたしたちは、「農耕」ということばの意味を、ここで、あまり厳密に規定する用意がありません。しかし、作物の栽培や家畜の飼養についての歴史性や地域性を明らかにし、なによりも、人間の営みとしての農業を考えてみる過程で、いわば近代「農業」に対置する内容としての「農耕」ということばを重視したいと思います。雑誌『農耕の技術』は、この姿勢を大切にしながら、農耕における技術の問題を、学問的に追究するみちを進んでゆくつもりです。
- ◇ 雑誌『農耕の技術』は、こうした立場に立つ、幅広い分野の研究に、ひとつの発表の場でありたいと思います。わたしたちは、ひとりひとりの研究者の、地についた、とらわれのない、独創性ゆたかな報告を期待するものです。
- ◇ わたしたちは、こうした地道な研究のつみかさねのなかから、農業における技術の正しい意味とあり方を、おたがいに考えてゆきたいと思います。また、そのことが可能でもあると思っています。
- ◇ こうした考えから、わたしたちは、ひろく農学の諸分野にかかわる方々の、積極的なご協力を、ぜひ、お願いしたいと思います。農業技術の正しい発展のために、技術のありようの原点にたちかえり、農業を正しく人間の営みとしてとらえかえすことが、今日ほど必要な時代はないと信じるからです。わたしたち発起人のすべても、こうした学問分野にかかわっているのですが、自省の気持をこめて、このことを痛感するものです。同学のみなさんに、こころからご参加を呼びかけたいと思います。
- ◇ それとともに、わたしたちは、農学以外の立場から「農耕」の諸問題に関心をもたれるあらゆる分野の方々に、かさねて、雑誌『農耕の技術』へのご

協力をお願いしたいと思います。人文科学や社会科学の分野のみなさんとも、「農耕」をめぐるおおくの問題を共有できるものと期待しています。ともすれば、閉塞されがちなせまい学問領域をとりはらって、雑誌『農耕の技術』が、このようなひとびとの邂逅と知的交流の場となりうることを、わたしたちは念願するものです。

◇ 雑誌『農耕の技術』は、当面、年1回刊行されます。わたしたちのほとんどは、雑誌の発行などということをも、まったく経験しておりません。編集や原稿の依頼などに、当分は苦勞しなければならないという一同の気持のあらわれが、当面、年1回の刊行とする理由です。しかし、そうすれば、内容の充実した誌面ができるにちがいないという期待が、いっぽうには、ないわけでもありません。

◇ 雑誌『農耕の技術』は、次号からは、あたらしい編集委員会のもとでつくられる予定ですが、ともあれ、創刊号をわたしたちの責任において、やや見切り発車のきらいもありましたが、発刊できることをよろこびとします。かさねて、おおくの方々の積極的なご参加とご協力をお願いします。

『農耕の技術』創刊発起人

栗原 浩・前田 和美
氏原 暉男・安江 多輔
渡部 忠世